

5 ため池浸水想定区域図【西谷池】

ため池ハザードマップの作成条件

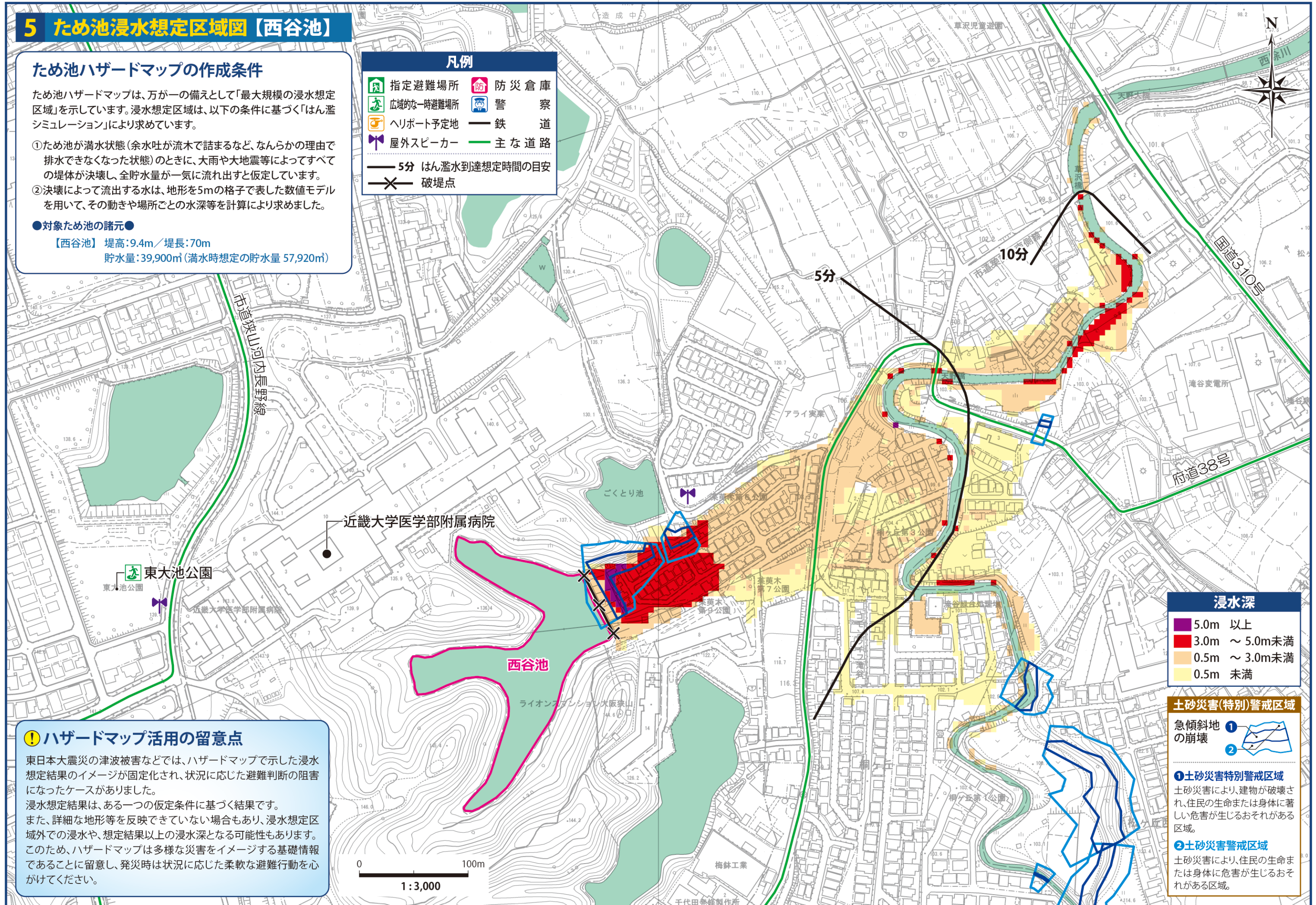
ため池ハザードマップは、万が一の備えとして「最大規模の浸水想定区域」を示しています。浸水想定区域は、以下の条件に基づく「はん濫シミュレーション」により求めています。

- ①ため池が満水状態（余水吐が流木で詰まるなど、なんらかの理由で排水できなくなった状態）のときに、大雨や大地震等によってすべての堤体が決壊し、全貯水量が一気に流れ出すと仮定しています。
- ②決壊によって流出する水は、地形を5mの格子で表した数値モデルを用いて、その動きや場所ごとの水深等を計算により求めました。

●対象ため池の諸元●

【西谷池】 堤高:9.4m / 堤長:70m
貯水量:39,900m³ (満水時想定貯水量 57,920m³)

凡例			
	指定避難場所		防災倉庫
	広域的な一時避難場所		警察
	ヘリポート予定地		鉄 道
	屋外スピーカー		主要道路
	5分 はん濫水到達想定時間の目安		破堤点



浸水深	
	5.0m 以上
	3.0m ～ 5.0m未滿
	0.5m ～ 3.0m未滿
	0.5m 未滿

土砂災害(特別)警戒区域

急傾斜地の崩壊

①土砂災害特別警戒区域
土砂災害により、建物が破壊され、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域。

②土砂災害警戒区域
土砂災害により、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域。

⚠ ハザードマップ活用の留意点
東日本大震災の津波被害などでは、ハザードマップで示した浸水想定結果のイメージが固定化され、状況に応じた避難判断の阻害になったケースがありました。浸水想定結果は、ある一つの仮定条件に基づく結果です。また、詳細な地形等を反映できていない場合もあり、浸水想定区域外での浸水や、想定結果以上の浸水深となる可能性もあります。このため、ハザードマップは多様な災害をイメージする基礎情報であることに留意し、発災時は状況に応じた柔軟な避難行動を心がけてください。